

1. 神様とアブラハム契約の更新

創世記 17:1 アブラムが九十九歳になったとき主はアブラムに現われ、こう仰せられた。

「わたしは全能の神である。あなたはわたしの前を歩み、全き者であれ。2 わたしは、わたしの契約を、わたしとあなたとの間に立てる。わたしは、あなたをおびたしくふやそう。」

→ アブラハム契約

- 1) 創世記 12 章 1～2 : 「父の家を出て、私の示す地へ行きなさい」「貴方を大いなる国民としよう」
- 2) 創世記 13 章 15～16 : 「カナンの土地を与える」「あなたの子孫をちりのように増やす」
- 3) 創世記 15 章 : 「15:4 ただ、あなた自身から生まれ出て来る者が、あなたの跡を継がなければならない。」

→ 17 章でアブラハムの契約が更新される

- 4) 私は全能の神である。あなたはわたしの前を歩み、全き者であれ。

創世記 6:5 主は、地上に人の悪が増大し、その心に計ることがみな、いつも悪いことだけに傾くのをご覧になった。

6:8 しかし、ノアは、主の心にながっていた。:9 これはノアの歴史である。ノアは、正しい人であって、その時代にあっても、全き人であった。ノアは神とともに歩んだ。

- 1) 神の前を歩め：神様の臨在の前に生きること。神様についていくのではなくて、いつも主が後ろで見ておられる、主の御言葉を元に考え、話し、行動すること。
- 2) 全き者であれ：ノアは地上の人々の悪が増大して、悪い事ばかりを考え行う世の中にあっても神様の御心を求め、神様の御心を行い【人間的な考えではなく】神様と歩んだ「肉ではなく、神様を信じる信仰に歩む人」こそ全き人です。

→ どうして神様はアブラハムに、このような宣言をされたのでしょうか。

- 神様は、「アブラハム自身から生まれてくる者が貴方の跡をつがなければならない」と言われました。

16:2 サライはアブラムに言った。「ご存じのように、主は私が子どもを産めないようにしておられます。どうぞ、私の女奴隷のところにおはいりください。たぶん彼女によって、私は子どもの母になれるでしょう。」アブラムはサライの言うことを聞き入れた。³ アブラムの妻サライは、アブラムがカナンの土地に住んでから十年後に、彼女の女奴隷のエジプト人ハガルを連れて来て、夫アブラムに妻として与えた。

- 妻サラの提案に従ったアブラハム；契約をして 10 年たった時、アブラハムは 85 歳、サラは 75 歳
1. 神様がアブラハムの妻であるサラに子供を産めないようにしている。
自分ももう年で、子供を産むことは不可能である。
神様が、子供を下さると言われるので、女奴隷によってもうけましょう。
 2. アブラハムは、サラの言う事を聞き入れた。
妻のサラの言う事は最もだ、彼女がこれから子供を産むことは不可能。
子孫を残すために、女奴隷を妻にしよう。

➤ 神様の御心はサラから生まれる子供と契約を結ぶこと

この時、アブラハムはイシュマエルが生きながらえてくれるように願いました。

なぜなら、自分もそろそろ100歳、妻も90歳でとうてい子供は生まれることはないと考えたから。神様は、はっきりと約束されたのです。

➤ アブラハムの信仰を強化する必要があったのです：奴隷の子供のイシュマエルが13歳の時。

神様は、「私は全能の神」であるご自身を現わされました。

意味は、エルシャダイ、全てを備えられる神という意味です。

1. カナンの土地を子孫に与える
2. アブラハムを多くの国民の父とする
3. サラを国々の母とする
4. サラが息子を産み、イサクを名づけなさい。この子供と子孫と契約を結ぶ

1. アブラハムは99歳
2. サラは89歳
3. 息子はまだ生まれていない状態。
4. 二人の子孫はおびただしく増えると約束された

2. 強化されたアブラハムの信仰

ローマ 4:19 アブラハムは、およそ百歳になって、自分のからだ死んだも同然であることと、サラの胎の死んでいることとを認めても、その信仰は弱りませんでした。20 彼は、不信仰によって神の約束を疑うようなことをせず、反対に、信仰がますます強くなって、神に栄光を帰し、21 神には約束されたことを成就する力があることを堅く信じました。22 だからこそ、それが彼の義とみなされたのです。

1. アブラハムは自分とサラの体が死んだも同然であると認めた
2. 信仰は弱らなかつた：不信仰によって神様の約束を疑わなかつた：
3. 信仰がますます強くなって、神様に栄光を帰した：神様には力があると信じた。全てを備えることのできる全能の神であると信じた。
4. 神様の前で、全き者となった。

応用 「神様の前に、全き人となるためには？」